

ミャンマー難民キャンプ図書館事業 「シャンティ国際ボランティア会」より

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの図書館へのご支援の継続を決定くださり、誠にありがとうございます。

コロナ禍により難民キャンプでの活動も様々な制約を受けております。感染拡大防止の観点からキャンプへの入場が制限されるなどある中ですが、2020 年度も図書館を継続して運営することが叶いました。これも皆さまから温かいご支援をいただいたお陰様でございます。

先日、難民キャンプの一つであるメラ・キャンプで、火災が発生しました。木造の住宅が密集する環境でかつ乾季にあたり、様々な状況が重なってしまったものと思います。幸い死者は出されずに済みましたが、コロナ禍に加え更なる苦難にあります。

ミャンマー国内の状況につきましても、現地事務所と連携を取りながら情報収集を行い、国内での活動にも取り組んでいく所存です。こうした中にあり一層図書館で寄り添っていくことの重要さを感じています。

貴会の皆さまからのミャンマー（ビルマ）難民キャンプ図書館事業への、心温まるご支援に、重ねて御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

時節柄、ご自愛のほど心よりお祈り申し上げます。

広報・リレーションズ課 吉田 圭助

ネパールの若者たちへの奨学金事業 「ベルダレルネーヨ」より

この度は、大変、大変有難いご連絡を頂きまして、誠にありがとうございました。

今年はコロナ禍で、皆様も思うように販売や活動ができない中、ご寄付をご継続くださるだけでも有難いことですので、多大なご寄付を私たちに託して下さいますことに、心からの感謝の気持ちと、身が引き締まる思いでおります。本当にありがとうございます。

ネパールはご存知のようにコロナの感染拡大による度重なるロックダウンや行動規制により、多くの方々が仕事を失い、また、やっと社会とつながり始めた女性たちがステイホームにより家族の中で逃げ場のない状態に追いやられたりと、悲しい知らせも届いています。

最近、日常生活は戻りつつあるようですが、政治の腐敗によりストライキが頻発していて、経済への影響も大きく、これから先が思いやられます・・・そのような状況により、奨学金の候補生も例年より増えているのですが、財源に限りがあるので、丑久保が非常に悩みながら、より厳しい家庭環境の子どもたちを優先するなど、苦渋の選択をしつつ対応をしております。

また、ずっと支援をしている養護施設の子どものうち、天涯孤独の少女2人がいよいよ

よ自立する年齢となり、看護学校に入学することとなりました。緊急で支援を募り、多くの方々のサポートのおかげで目途が立ち、先日旅立ちました！看護師になりきって良いモデルとなることと思います。これからも応援していきたいと思います。

本来でしたら、現地の様子のご報告にお伺いしたいところなのですが・・・コロナが落ち着きましたら、いつでも飛んで参ります！！皆様との再会を心待ちにしております。

追伸；それにしても日本の政治もひどく・・・ WE21 さんの WE の由来、「Women's Empowerment/女性が力をつけること」を改めて拝見し、女性自身が誇りを取り戻し、自らエンパワメントして社会をひっぱっていかねばと強く思っております！

感謝の気持ちを込めて、
ネパリ・バザーロ 代表 高橋 百合香

カンボジア 村の幼稚園 地域での継続支援 「幼い難民を考える会(CYR)」より

春が近づいてきていることを感じる毎日です。お元気でお過ごしでしょうか。

ニュースレターと書き損じハガキ&未使用ハガキ 514 枚を相次いで拝受しました。

いつもお気にとめてご支援をいただき、本当にありがとうございます。

ニュースレターの記事をまとめたり、ハガキの取りまとめなど、動いてくださっている方々の表にはでないご尽力にも心より感謝申し上げます。ディスタンスを余儀なくされて一年以上が経過してしまいました。また、お目にかかれる機会が訪れることを楽しみにしております。本当にありがとうございました引き続き、どうぞよろしく願い申し上げます。

片山 美紀

カンボジア子どもの栄養改善事業 及び国内在日外国人支援事業

「シェア＝国際保健協力市民の会」より

また、2021 年度支援についてきまして、ご連絡いただきありがとうございます。

コロナ禍にありながらも、皆さまが何とかと心を尽くしていただいているの思いに感謝です。

大切に活動費として使わせていただきます。なかなか直接のご報告やご挨拶にこちらも行けず、恐縮ではありますが、

皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈りいたしております。今後とも、何卒よろしく願い申し上げます。

海外事業担当 佐久間晶子

宮城県気仙沼市「生活支援プロジェクト K」より

昨夜から台風並みの風が吹き荒れている気仙沼です。先日の地震には大変驚きました。気仙沼は震度4でしたが、それ以上の揺れに感じました。しかし、福島や仙台、県南部のような被害はなく、断水や停電もありませんでした。断層の違いなのでしょう。今回、沿岸部は被害がほとんどありませんでしたが、丸森などの内陸部はおととしの水害の被害もありましたので、心が痛みます・・・。

久々の大きな揺れでしたので、10年前を思い出した人が多いようです。私は東日本大震災時東京にいましたが、やはりその時のことを思い出しました。揺れが長かった分、「これ以上続かないで～、早く収まって～～！」と願いました。関東でも揺れや停電等の被害があったようですが、いかがでしたでしょうか？

先日のメールで、新年度もご支援いただけるとのこと、ありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。トレーラーハウスを撤去し、なるべくお金をかけずに活動ができる方法を、と考へてはいますが、やはり活動費はかかるので、とてもありがたいです。大切にさせていただきます。

3.11に向けてのメッセージ、ということですが、私は先日の地震で、やっぱり心のどこかでは緩んでいた部分があったなと思いました。10年という節目ではありますが、日々備えて気を付ける、ということの積み重ねで終わるときはないなと思いました。今の日本はどこに住んでいるから安全、という場所はないと感じています。

東北に心を寄せていただいていることに感謝しつつ、皆様にもぜひ日頃の備えをしていただければと思います。

大森美和

甲状腺がん支援グループ「あじさいの会」より

大事に使わせて頂きます。コロナ禍の中ではありますが、みんなと繋がっていきたくと思っています。

地震大国の日本に原発を作ってしまったことの怖さを実感します。2月13日の地震の影響と思われる東電からの公表があり1・3号機格納容器（燃料プール）の水位低下のニュースに身震いいたします。東電は放射能の影響はないと言って負いますが、地震から1週間以上もしてこの報道に、怒りがわきます。デブリの冷却は維持されていると発表していますが、燃料棒に水がいかない影響が何を意味するのか、再臨界が起きたら半径250キロと言われています。更に汚染水は増えるでしょう・・・そんなところへの帰還政策が推進されています。

原発から目を逸らすわけにはいきません。原発事故から10年目、甲状腺問題も何もかも一区切りにしたいのですが、このニュースは改めて原発の怖さを知らしめています。

感謝を込めて御礼のメールと致します。

千葉親子